

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600132		
法人名	社会福祉法人 熊晴会		
事業所名	グループホーム あさひ塩野室		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504-26		
自己評価作成日	令和2年2月14日	評価結果市町村受理日	令和2年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	令和2年5月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人が安心して笑顔で日々の生活を送れるよう、個性に合わせた支援を心掛けています。
ご自分のペースで過ごして頂く中で、季節を感じられるよう月毎に行事を計画し、設えや食事、レクリエーションや外出を取り入れ楽しめるよう取り組みを行っています。
ご家族が気軽に疑問や相談事を話せるよう、丁寧な関わりを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が立地しているのは散策しながら草花を摘むことができる日光市郊外の田園地帯で、市役所の地区センターや小・中学校、公民館、児童館などが2Km圏内にある。同じ法人が運営する地域密着型特別養護老人ホームと隣接しており、運営推進会議を合同で開催している。地域との関係は児童館の運動会に参加する程度に限定されていて、今後の交流発展を模索しているところである。理念「あなたのあふれる笑顔と想いに寄り添います」を掲げ、利用者一人ひとりの意向や希望を汲み取り、食事の支度や入浴、トイレなど、見守りながら本人のできないことを手助けするという寄り添い型のケアに努めている。事業所が契約している協力医が月に1回往診してくれる他、利用者全員が年に3回協力医の医院にて採血や心電図などの定期的な健康診断を受けている。日々の利用者の様子や把握できた希望などをきめ細かく家族に伝えており、家族からは安心して任せられるとの評価を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、いつでも確認できるようにしている。毎月のカンファレンスで、職員への意識づけも行っている。対話から本音を引き出しそれぞれの思いを受け止め、職員間で共有し信頼関係構築や安心・安全な生活が出来るよう努めている。	事業所の理念は「あなたのあふれる笑顔と想いに寄り添います」である。理念を額装して玄関を入った正面の壁に掲げており、訪ねてくる家族や関係者の目にとまるようにしている。職員は利用者が毎日を笑顔で過ごせるよう対応をしているが、管理者は職員によって理念に対する理解度に差が見られることが課題であると考えている。	職員には会議や申し送りなどを通して理念の共有を図っているが、管理者は周知徹底には至っていない面もあるとの認識を持っており、職員へのさらなる意識付けが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある児童館の運動会やクリスマス等のイベントに参加させて頂いたり、同一法人施設での催し物に参加したりと交流を図っている。また、ボランティアの定期的な受け入れを行っている。	事業所は同じ法人が運営する地域密着型特別養護老人ホームに隣接している。また、3年前に運営法人が変わる際に、名称を変更している。地域の児童館のイベントに参加することはあるが、地元とのつながりが希薄であり、事業所独自の行事なども実施には至っていない。特に現在の新型コロナウイルス感染防止対策下においてはボランティアの受け入れも休止しており、交流が出来ない現状にある。	隣接する敷地に、別法人が運営するグループホームと小規模多機能型居宅介護事業所もあり、地域の人にとっては、特養も含めて4つの事業所が一体のものとして受け取られているのではないかと思われる。また、メインの県道からの入り口には以前の名称の看板を掲げたままとなっている。これらのことが事業所の地域への浸透の障害になっている恐れもあるので、この機会に地域住民の理解を図る方策を検討することが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践している事が無い為、課題としたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では入居者の状態や日常の様子等を報告し、課題については参加者から意見を頂いている。	事業所の運営推進会議は同じ法人が運営する特別養護老人ホームと合同で実施しており、グループホームとして規定されている年6回の会議が開催出来ておらず、年2～3回のみである。参加者は両施設の長、市職員、家族代表が主で、地域からの参加者は自治会長や民生委員となっているが、参加しないことも多い。	地元との関係を強化するためにも、自治会長や民生委員の参加を求め、事業所への理解を働きかけることが望まれる。さらに、事業所独自の課題を協議するためにも、規定の年6回開催に近づけることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や報告事項等がある時は、すぐに市町村担当者に連絡をして確認している。	運営推進会議には市の職員が参加し、行政情報の伝達および制度や介護サービス等への質問に答えてくれている。市からの情報はFAXなどで知らせを受けているが、事業所連絡会等への参加が出来ていないことが課題となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間予定を立て、委員会を3ヶ月毎、研修を年2回確実に実施するよう努めている。研修内では、身体拘束に関する自己点検も行い、結果を集計して課題に対しては解決に向けて話し合っている。玄関は日中は開錠しており、鈴を取り付け安全面に配慮している。	身体拘束をしないケアについては、職員が自己採点したり、委員会や研修会等で確認して、意識の向上を図っている。可能な限り利用者の意向にあわせて支援するようにしており、一人で戸外に行こうとする利用者には散歩の実施等に対応している。	日中は玄関を施錠せず、季節が良くなり、空気の入換えを兼ねて玄関扉なども開け放している場合が多い。今後も声掛けや楽しみの工夫で、事故がないように務めていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する自己点検を行い、結果を集計して課題に対しては解決に向けて話し合っている。日常でも職員同士で注意を払い、痣や傷等に関しては事故報告書を作成して、原因究明や改善策等を検討し虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等を活用し学習する機会を持ちたいが行えてない為、今後の課題とする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の立場に立ち、不安や疑問点を含めて丁寧に説明を行い、納得して頂いた上で契約を行っている。改定等があった場合も、同様に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との日常会話の中で意見や要望が出た場合は、出来るだけ実現するよう努めている。また、気軽に意見や要望が言えるよう信頼関係構築に努めている。家族も意見や要望が言えるよう、ご意見箱を設置したり面会時や家族会等で話す機会を作るよう努めている。	家族が来訪した折に利用者の状況を伝えるほか、日常的に利用者の様子を電話連絡等で知らせている。その際に事業所の運営に対する意見を聞いたり、意見箱への投函を勧めたりしている。家族から文書を通して、雨でぬかるむ駐車場の整地について要望が出されたことがあり、対応済みである。家族会が組織されていて、食事会などが実施されているが、今年度は開催できなかった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間のコミュニケーションを大切にし、意見や提案がある時はその都度やカンファレンスで話し合っている。必要に応じて、代表者との面談も行っている。	管理者は職員とのコミュニケーションに努め、意見や要望を聞き取っている。把握した運営上の課題については、法人上層部と相談して解決策を実施したり、実施できないことについてはその旨を職員に伝えるようにしている。これまでに、職員の意見に基づいて、事業所独自の定例職員会議の開催や施設内外の設備修繕などの改善が図られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の仕事への取り組み方や勤務状況等を代表者へ報告することで現状を共有し、職員それぞれの個性や得意分野、専門知識等を現場での勤務で活かすことでやりがいや向上心が高まるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員とのコミュニケーションや現場での勤務姿勢等から、一人ひとりのケアの実際と力量の把握に努めている。研修の情報が入り次第告知し、職員から研修参加希望が出た場合は勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、研修等に参加している。必要時には、同法人内の別事業所と連絡を取り合い報告・相談を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を通して不安な事や要望等を出来るだけ聞き出せるよう、傾聴を基本にして環境や話し方に配慮するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を通して不安や要望等を出来るだけ聞き出せるよう、環境や話し方に配慮している。家族が気軽に不安事や困り事、要望が言えるよう、玄関にご意見箱を設置している他、丁寧な対応を行うことで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や意見を踏まえ、グループホームでのサービス内容を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の気分や状態に配慮しつつ、一緒に清掃や買い物をしたり、食事に関わる調理や盛り付け、食器拭き等の片付けを行っている。食事やくつろぐ時間も一緒に過ごすことで、共に生活をして支え合う関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりは、主に電話連絡や面会時や家族会開催時となっており、その際に本人の様子を報告したり、本人・家族の思いを伺い必要に応じてケアの方向性等を検討し、一緒に支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会も広く受け入れ、気軽に面会をして頂けるよう対応し馴染みの人との関係の継続に努めている。入居者によっては、家族と一緒に外出し馴染みの人や場所との関係を継続している。	重要事項説明書には、「利用者の今までの地域との関わりを大切に、日々の生活の中で持続できるように配慮し援助します」と記載され、関係性の継続に留意している。家族や親戚、友人が事業所を訪れる以外にも、手紙が届いたり、家族や友人と一緒に外出したりする利用者もいる。	馴染みの関係が途切れたままの利用者もいるので、事業所内での楽しみの充実に努めてほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、座席を工夫している。職員が目配りを怠らず関わりを持ち、孤立しないよう努めている。またレクリエーションやイベント等は、皆が参加して楽しめるような内容をもつを行うよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実践出来てないが、必要に応じて対応を行えるよう関係性を大切にする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人や家族の希望・意向に耳を傾けている。状態により困難な場合は、本人に寄り添い表情や仕草等から汲み取るよう努め、必要時には時間を作りより丁寧に対応している。	入居時の調査からは見えてこなかった本人の意向や希望を、日常生活の中での発言や行動から汲み取り把握している。職員が把握した本人の希望について、職員間で情報を共有するとともに、家族にこまめ伝えている。伝えられた本人の希望に家族が対応して墓参りを実現した事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境等は、事前調査の情報や普段からコミュニケーションを取ることで把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の食事・排泄・睡眠等から現状の把握に努めている。暮らし方や生活のリズム、その時々的心身状態を把握し、それらを踏まえた上で出来る事・出来ない事を見極めている。必要に応じてカンファレンスで話し合い、情報共有に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで、より良く暮らす為の課題やケアの在り方等を話し合い、内容を全職員で共有している。	計画作成担当者が本人や家族、職員からの聞き取りを行い介護計画を立てている。毎月の会議でモニタリングを実施し、ADLの低下があり要介護認定変更が生じた時やケアの目標設定や内容の修正の必要があった場合、再アセスメントを行い計画を立て直している。利用者本人の散歩に行きたいという意向が新たに把握できたときに計画書に取り入れたり、認知症の進行によって身の回りの支援が必要になったときに、サービス内容の追加を行って対応した事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々過ごしている中での行動や発した言葉や会話、気づき等を個人記録として残している。また、引き継ぎ時の申し送りや連絡ノートで情報共有し、共通理解を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態変化等様々な状況により生まれたニーズに対しては、本人や家族と話し可能な限り柔軟に対応するよう努めている。また、買い物や外出支援も事前計画の有無に関わらず状況に応じて行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの方に来て頂いたり児童館の催しに参加させて頂いている他、同法人別事業所での催しにも可能な限り合同参加している。更なる・交流が持てるよう体制を整えたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月協力医の往診があり、状態の報告を行っている。何かあれば協力医の指示を仰ぎ、状況に応じて協力医やかかりつけ医の受診を行っている。疾患や特変等は、ご家族へ確実・正確に伝達するよう努めている。	事業所が契約している協力医が月に1回往診してくれる他、入居者全員が年に3回協力医の医院にて採血や心電図などの定期的な健康診断を受けている。家族が対応して入居前からのかかりつけ医を継続して受診している利用者もいて、受診後施設に戻った際に家族から診断情報を聞き取り、申し送りや連絡ノートで全職員で情報共有している。家族がどうしても対応できない場合は、通院介助費を負担してもらって職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気付いた入居者の変化や、薬剤・処置等に関しては、必要に応じて看護師に相談して適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、サマリーを提出している。入院中は面会に行ったり、病院での状況報告が行われる際には、ご家族の了承を得て一緒に参加させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在看取り介護は行っていないが、定期的に看取り介護勉強会を行い職員間で知識を深めている。	看取りについての指針はあるが、現時点では利用者家族からの明確な要望はない。今後重度化した場合は、家族や本人の希望を聞きながら、事業所からケア方針を提案していきたいと考えている。看取り経験のない職員にも、過去の研修やインターネット等の資料を活用して定期的に勉強会を行っており、時間をかけて対応できるようにしたいとしている。	看取りの指針は、前法人が作成したものを受け継いでいるだけなので、現法人としてできることや目指す方向性を検討して、本人や家族から今後出てくるであろう要望に対応できるよう、見直すことが求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応方法があり、急変や事故発生時等にはそれに沿って対応を行っている。定期的に確認したり、講習に参加する等して知識を深めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の年間予定を立て、それに沿って定期的に訓練を行うようにしている。全職員が重要性を認識し、災害時に適切な対応が出来るよう努めていきたい。また、備蓄の確認や地域との協力体制構築を行っていきたい。	昨年11月に消防署立ち合いによる火災訓練を実施し、今後は地震や夜間想定での訓練も行う予定である。現時点で、地域との協力体制が構築されていないことと勤務体制により訓練に参加できていない職員がいるという課題があるが、地域との関係性を築いていくとともに、全職員が災害時に適切な対応をできるようにしていきたいと考えている。	前法人から引き継いだ災害対策マニュアルを、できるだけ早く現状に合わせて見直すことが望まれる。また、防災訓練にまだ参加できていない職員がいるため、訓練の実施方法やシフトを工夫するなどして、すべての職員が災害時にあわてないで対応できるようにすること、夜間想定での訓練の早期実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、職員本位の声掛けにならないよう注意したい。プライバシーを損ねないよう、排泄の確認を職員同士で伝達する際他入居者に分からないよう工夫したり、個々の羞恥心や思いに寄り添う対応を心掛けている。	利用者のプライバシーが侵害されないよう広報誌等への利用者の顔写真掲載や書類の取り扱いについて慎重に配慮している。また、日常の排泄状況の確認は周囲にわからないよう配慮し、排泄時も介助等の必要がある時以外には、職員がトイレに入らないようにしている。入浴介助も利用者の希望に沿って同性介助の対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から信頼関係構築に努め、会話の中から入居者が思いや希望を言えるような雰囲気作りを心掛けている。提案をする際も、ご本人の意向を確認しながら話を進めていくよう心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は、リビングで塗り絵やパズルをしている方、新聞や雑誌・本を読んでいる方、テレビを観ていたり居室で昼寝をしている方等があり、ご入居者のペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床・就寝時の着替えの際に、好みの服が着られるよう選んで頂いている。自分でメイクや小物を着用している方もいる。散髪は、希望の有無により行い、分からない方は定期的に行っている。ご家族と馴染みの美容室に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や入居者の希望を取り入れながら、職員が献立を作成し入居者と買い物に行っている。また、食材を切ったり混ぜたり盛り付けをしてもらったり、個々に合った食形態で提供している。食事後は、食器拭きをしてもらっている。	職員が見守りながら、利用者がそれぞれでできることで食事の準備や片付けをしている。麺類好きの利用者が入居してから麺類のメニューを増やすなどして、できる範囲内で一人ひとりの好みに対応するようにしている。ティータイムには、メニューを見せて好みの飲み物を選んでもらうこともある。誕生日や行事の際には、晴れの日を感じられる食事を提供しており、特に刺身や生寿司が人気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みを把握し、バランスを考慮しつつご本人に合った量や形態で提供するよう努めている。水分摂取量も常にチェックし、進まなかったり足りてない方には、声をかけたり飲みたい物を聞いて提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声をかけ口腔ケアをしてもらっている。自分で行えない方は、介助している。義歯には週3回洗浄剤を使用し、清潔の保持を心がけている。また、必要時にはご家族に歯科受診の依頼を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、チェック表を活用しつつ必要な方には声をかけ誘導している。その際は、汚物をトートバッグに入れ破棄する等プライバシーに配慮すると共に、必要に応じてリハビリパンツやパッドを使用する等自立に向けた支援を行っている。	自立してトイレに行ける利用者が約半数おり、職員の携わりが必要な利用者についても、排泄パターンを把握して声掛け誘導をすることで自立支援をしているので、現在おむつをしている利用者はいない。夜間には、一人ひとりの睡眠状況などに合わせて対応していて、失禁があった利用者にもパッドの使用を勧めたところ、自分自身で交換するようになり、失敗する頻度が減った事例がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行ったり、食事で乳製品・果物・野菜を提供しており、希望者にはヤクルトを購入している。便秘の方には水分を多めに勧めたり、必要に応じて下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入浴できるよう支援している。入浴中はリラックスできるよう音楽を流したり、入浴剤や季節により保湿剤を使用している。また、衣類の着脱、洗髪・洗身等はご本人のペースに合わせるよう努めている。	週2～3回、夜間帯以外は、できる限り利用者の希望に沿った時間帯に入浴できるよう支援している。カセットデッキで童謡や演歌などのCDをかけるなどして、入浴を楽しめる工夫も取り入れている。また、衣類の着脱や洗髪洗身など本人のできることを尊重して、職員は本人ができない部分を手助けするという気持ちで入浴介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況を考慮しつつ、必要な方へは就寝への声かけを行っている。居室内の照明や温度に配慮し、エアコンや包布等で調整したり、冬場は乾燥を防ぐべく加湿器を活用している。希望者には自前の寝具を持ち込んで頂いている。起床時や日中は、包布類をたたんで置く等環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助前後は職員同士でダブルチェックを行い、入居者の口内に入り飲み込むまで見守ることで、ミスなく確実に服用してもらえよう努めている。症状の変化や内服薬の変更があった場合は、看護師や協力医に相談したり申し送りや記録等で情報共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリをつけるべく、洗濯物たたみや掃除等を一緒に行ったり、体操やレクリエーションや趣味を行う中で、一人ひとりの力を活かして楽しんだり気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り散歩や買い物、ボランティア・地域の催し物等へ外出している。その他機会は少ないが、年間行事予定を立てて外出支援を行うよう努めている。日々の会話等で出た外出先や外食の希望を、可能な限り実現できるよう体制を整えている。	数名ずつ交代で車に同乗して職員と一緒にスーパーに買い物に出かけたり、職員の対応が可能な時は、庭や施設周辺を散歩するようにしている。自力で歩行できない利用者については、車いすを利用して外出支援をしている。お花見や紅葉狩りの外出が特に利用者に人気があり、個別の外出支援としては、野花が好きで摘みたいという希望に沿って散歩がてら近所に野花を採りに出かけたことがある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金は、主に外出先での食事や本人の日用品等の購入に使用している。職員は本人がお金を持つ事の大切さを理解しており、状況に応じて支払いができるように支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用を希望されている方へは、状況を見つつ取り次ぎを行っている。手紙の使用希望者はいない為、届いたものに関しては返信出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に木材を使用した落ち着いた色彩で、陽の入り具合や空調等にも配慮している。リビングには観葉植物を置いたりその時々で飾り付けをして、季節を感じたり楽しめるような雰囲気作りに努めている。トイレ等で汚れや臭いを発見した場合は、その都度清掃し使用者が不快にならないよう努めている。	共用空間は華美な装飾がなくシンプルなしつらえになっている。季節を感じられるような飾りつけを心がけていて、リビングには利用者と職員と一緒に作った折り紙などの作品やイベントの時の写真などを壁に飾っている。ほとんどの利用者は日中は自室ではなくリビングで過ごしており、全員でやるレクレーション以外はテレビを見たり塗り絵をしたりして自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中のほとんどの時間をリビングの自席で過ごされる入居者が多いので、相性や性格等を考慮し自席の配置を工夫している。また、リビングや通路にはソファや畳スペースが置いてあり、自由に使用できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や家電品や寝具等を持ち込んで頂いている。自身の作品やご家族との写真等を飾っている入居者もあり、居心地良く過ごせるような工夫している。	居室には備え付けのベッドがあり、カーテンも二種類の色を用意して、部屋毎に変えている。家具はそれぞれが馴染みのものを自宅から持ち込んでいて、使いやすい配置で置いている。孫からの贈り物が飾られていたり、テレビを持ち込んでいたり、冷たい飲み物が飲みたくて冷蔵庫を置いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、カーテンの色を変え認識し易いよう工夫している。トイレ付近の壁にも、それだと分かるよう表示をしている。また、トイレやリビング周りの洗面台近くの手が届く所にペーパータオルを置き、自立して行動できるよう工夫している。		